

PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

LETTER

125

2014. 3

PHD 運動とは 1962 年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの 10 パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981 年から始まりました。

発行：公益財団法人 PHD 協会 理事長 今井鎮雄
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通 5-4-3
元町アーバンライフ 202
TEL：078-351-4892 FAX：078-351-4867
Email：info@phd-kobe.org
URL：http://www.phd-kobe.org
郵便振替口座：公益財団法人 PHD 協会 01110-6-29688

- 草の根通信 . . . P. 4
- 31 期研修生レポート . . . P. 6-7
- 帰国研修生短信 . . . P. 10



インドネシア アラハンパンジャン 撮影：T. SAKANISHI

ソロ郡議会選挙に立候補したダスウィルさん。

「私は自分の村だけじゃなくて、もっと大変な村のためにがんばりたい。だから議員になりたいです。そしてシランジャイ村とかの生活をよくしたい」と語る。

選挙には大金が必要で、私財を投入しての選挙活動中。投票日は 4 月 9 日。「大丈夫です」と語るが、はたして？

PHD Movement vol.9

～分かち合い実践録～

事務局長 坂西卓郎

草の根通信始めました！

◆研修生が「今」を綴る

新しい取り組みを始めました。その名も「草の根通信」。帰国した研修生に母国語でレポートを書いてもらおうというものです。いつもスタディツアーでの訪問時に日本語でインタビューはしていますが、言葉の壁に加え時間の制約などもあり不十分な状況でした。そこを解決するために始めた取り組みですが、実際にやってみると母国語だと今までとは違った事実や思いが綴られており、発見が多いです。

◆翻訳ボランティアの方に感謝！

現在、ミャンマー、ネパール、インドネシアで取り組みを行っているので、既に20名以上の文章があります。紙面の都合上、一部しか紹介できませんが、少しずつPHDレターで紹介していきたいと思えます。またこの翻訳にはそれぞれの言語に精通したボランティアの方々にご協力いただいています。翻訳者の皆様のご協力がなければ実現しない企画であり、快くご協力いただいた皆様に心から感謝しています。

ミャンマーからの草の根通信

さて、第一弾はミャンマーからの研修生タウンティンテー(テー)さんです。農業に真摯に取り組むテーさんの通信はP.4に掲載させていただきましたが、ここではその他のミャンマー研修生が綴った通信の一部を紹介したいと思います。今回は初回ということで漠然とした質問に答えてもらっていますが、今後はより期間や対象を絞って具体的に聞いていきたいと思っていますのでご期待下さい！

◆新しい地域での挑戦！



トウンティンさん (93年度)
循環農業、種もみのまきかた、種もみの取り方、田植への仕方、ボカシのつくり方、元の種もみを大事にして守ることを実践し、教えています。また小学校へ行きたいけれど、資金面で問題のある子どもたちに寄付したり、若者たちの国内研修旅行もしました。村の皆さんと協力して小学校の新しい建物を一棟作りました。

◆村のリーダーに成長！



スウェウィンさん (02年度)
村の行政組織では、リーダーとして責任を持って行動をしています。村の道路整備や新しい小学校の建設といった事業でも議長を務めています。また2013年に私と村の友人と協力し、150万チャット(約15万円)を集め、お金を貯めたり貸したりできる新しい活動を始動させました。「100 power」という村の青年組織も行っています。

◆私の目標！



ケンターウェさん (03年度)
近所の子どもたちに勉強を教える予定です。代金はもらわず、午後に勉強を教えると決めています。本当に教えると約束しました。

その他には、村の人々、老人から若者まで、歯は朝磨いています、食後に磨く方が効果的です。そのため、幼稚園へ行って清潔について教えるのと

ともに、歯磨き粉を寄付したいと思っています。実現できるよう努力していきます。年に3回は実行したいです。

◆農業の利益を地域に還元！



ゾーウィンさん (04年度)
山岳地帯の小村出身の学校に行けない子どもの面倒をあれこれと見て、学校に通わせてあげました。私のこのような費用は米やマンゴー、ライムなどで得たお金を集めて、努力してやっと捻出したものです。

◆授業準備の大切さを実践中！



スースーティンさん (06年度)
日本の学校で勉強したことは、先生たちは授業の前に準備をすること、子どもたちが主体的にどのように学ぶかということ、時間通りに登下校すること、勉強時間、子どもたちが健康になるための食事など。これらを自分自身でやってみせて、他の先生たちと話し合いながら、一緒に行っています。

◆お世話しすぎない育児を！



ティダさん (07年度)
私は日本の幼稚園で勉強しました。今、勉強したことを教えています。子どもたちに自分でできることは自分でやるというのを教えて、栄養のことを考えて、毎日食べましょうということを、まず自分で実践して教えています。子どもたちに丁寧な話し方や、大人や若い人たちに挨拶について、教えています。

タランバングからの草の根通信

続いてインドネシアの研修生からの通信も、一部紹介させていただきます。

◆村長としてトイレ、道を整備！



アフダールさん (00年度)
それぞれの家に衛生的なトイレを持つことが必要である事について伝えました。おかげさまで今日までに70%の家にトイレが完備されました。また昔はタベ村へ入る道が酷かったのですが、私が村長になってから知事に道の補修を提案し、ありがたいことに実現されました。私の夢は、私の村が清潔な村に、地域が公平で豊かに栄える地域になることです。

◆農業指導グループを設立したい！



アルウィさん (01年度)
私は2002年、タラタジャラン村に農業グループ「レスタリ」を作りました。そしてグループのメンバーに、有機肥料を使うよう促しました。私は地域住民の指導と育成のため、今年指導グループを設立する予定です。つまりそれはPHDとタラタジャラン村の団結です。どうしたら良いグループができるのか、PHDの知恵を借りたいです。

◆私の天職！幼稚園と母子保健



ダルミアティス(ミミ)さん (02年度)
私が管理する幼稚園と母子保健活動は、市と州から度々高い評価をいただきました。2013年、母子保健活動は州で1位になりました。大変嬉しかったです。そしてタベ村にはパイプを通して浄水

も供給されています。上水があるおかげで、大勢の住民が自宅にトイレを持つことができ、大勢の住民のために働けるこの仕事は、私の天職です。

◆母として家庭で、地域で実践！



エルリナさん (03年度)
私は母子保健活動と婦人会でスタッフとして働きました。お母さんたちに、赤ん坊の食事や、栄養価が高く多彩でパランスの取れた食べ物についての知識を授けました。まず全てのことは自分の家族に試してみて、その後村の人たちに広めて行きました。日本で学んだ一年間はまず私にとって、そして村の人たちにとっても大変有益でした。

◆自分の村に幼稚園を設立！



アフリタさん (04年度)
村に帰って以降、幼稚園設立のため努力しました。2005年から2007年、私はミミさん、エルリナさんと共に幼稚園でボランティア教師をしました。そして2007年からは、自分の村の幼稚園でボランティア教師をしています。これからコンクリート造りの幼稚園を設立するために、政府に提案書を申請します。

◆サトウキビと牛糞でバイオガスを！



マスラルさん (05年度)
私は村での生活が健康で豊かなものになるようにしたいです。10年後に貧しい人がいないように。村の能力と状態にあったやりかたで努力するよう、村の人たちを誘っていきたくです。村には

たくさんのサトウキビがあり、砂糖を作るには沢山の木が必要です。私はこのままでは村の森がなくなるのではと心配しています。だから私は、サトウキビの滓と牛糞からバイオガスを作ることを考えています。

◆闘っていく決意あります！



ヘルマさん (07年度)
私はシランジャイ村が、他の村々のように発展した村になってほしいと願っています。道や学校、電気などの建設面だけでなく、住民が平和で健康で平穏かつ平安であるようにと望みます。もしもいつか私が大学を卒業することができ、私に能力があったならば、村を私心なく立て直したいと考えます。そのために闘っていく決意があります。

提唱者 温故知新 岩村昇語録

～脱文明生活の豊かさ～

岩村はネパール生活20年間に、多くのことを学ばせていただきました。その一つは脱文明生活の豊かさです。(中略)日本は生活があまりにも便利になり過ぎ、自分のことだけ考えていけば夜が明け、日が過ぎて行くかのようには思えて…。人は独りでは生きていけない、お互いに分かち合っている他に道はないのが、この宇宙船地球号の実態なのです。(『PHD Letter3 脱文明生活を貴方様のご家庭でも』より抜粋)



この30年間、利便性は更に高まった。今の研修生は水俣を、日本を知り、「便利だけは幸せにならないです。日本に来るまで私の村悪いと思っていました。でも、私の村、いいです」と語る。私たちの社会との比較で「自分の村のあるもの探し」。日本に来なければ分からない研修生の大きな気づき。(坂西卓郎)



草の根通信 <第1号>

タウンテンターさん (2005年度・ミャンマー)

る限り少なく使用するようにしています。

ミャンマーの農業では、雑草は人の手で抜かなければなりません。そのため、農民の多くは化学肥料を使用し、除草剤をまかなくてはならないのです。除草剤で雑草を取り除くことはできませんが、それが土壌を壊していることを知らないのです。このことを、農家の人々が理解するように説明していかなければなりません。

Q. 困難を感じていることは？

私たちの国は、機械農業ではない農業国家です。そのため、人力で農業をしなくてはなりません。多くの人は田舎で働くよりも、工場や会社での仕

事を望むため、農民が少なくなっていることが一番の問題です。

また、農業の費用を自分で調達することが望ましいことです。しかしながら、他人から借金しなければならない人もでてきていて、収穫物の利益を借金の返済に充てなければならない状況に陥っています。利益を得られないのに、働かなければならないのです。

Q. 今後の目標や夢は？

村人の教育や農業・保健についての知識が向上するようになって初めて、村の発展があります。村が発展するためには、そこに住む村人たち自身の発展が必要です。そのために、最も必要とされているのが教育です。

(翻訳：廣江智子さん)

Q. 村のために頑張ったことは？

農業においては、他の村人のお手本となれるように、特に努力しています。一方的に教えることより、まずは自分のすべき任務を果たすことに重点を置き、私のしていることを教えてほしいという人がいれば、日本で習ってきた方法を辛抱強く伝えるようにしています。私自身、農業では他の多くの人と協力してできるよう努力しています。日本で自然農法を習得してきた者として、危険な化学物質や化学肥料をでき

ロータリークラブが生み、育てて下さった PHD 協会

ロータリー米山記念奨学会



神戸西ロータリークラブ
例会で近況報告をするダリスマンさん

2013年4月から2014年3月まで、お世話クラブとして神戸西、川西、篠山ロータリークラブの皆さまに受入れていただきました。

ダリスマンさんは「最初はすごく緊張していたけど、暖かく迎えて頂いたおかげで、人前で話す事が平気になった。それが一番の勉強」と一年を振り返りました。

モーママさんは、卓話や例会で自らの保健衛生やボランティア活動について熱弁し、手作りの図書館開館の話をさせて頂いたところ、川西ロータリークラブさんから図書購入資金のご協力を頂くことになりました。

プレムさんは奨学生としてだけではなく、同じ分野で働くカウンセラーさ

川西ロータリークラブ



サンクスギビングパーティーにて
中村会長、竹内カウンセラーとモーママさん

んに農業研修生としても受入れて頂き、人生の先輩に出会えたように思います。

今後も研修生の活動を暖かく見守って頂ければと思います。ありがとうございました。(井上理子)



井上会長とプレムさん

皆様のおかげで、かめのり賞を受賞させていただきました！



1月10日、かめのり賞を受賞させていただきました。かめのり財団が主催する同賞は「交換留学、文化スポーツの青少年交流、語学教育など、日本とアジア・オセアニアの相互理解の増進に草の根で貢献している方々の活動を顕彰し、支援」することが目的となっています。

つまり、PHD協会の研修事業が一部の専門家だけで成り立っているのではなく、広く様々な立場の方に関わっていただいていることが評価されたのだと受け止めています。よって今回の受賞は今まで当会に関わっていただいた全ての皆様に捧げられるものです。この場を借りて皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

PHD 活動紹介 11月～2月末



11月

- 1日 ステップハウス 報告会 (今里・研修生)
- 6日 大阪経済大学インターン2名受け入れ①
- 7日 NGO研究会グループインタビュー (坂西)
- 9日 スタディツアー合同説明会 (坂西・本田)
- 10日 日本文化セミナー (研修生3名)
- 13日 大阪経済大学インターン2名受け入れ②
- 16日 コープこうべボランティア交流会 バザー (井上)
- 21日 のぞみ保育園 (今里・本田・研修生3名)
- 23日 伊丹ロータリークラブ サンクスギビング (井上・研修生3名)
- 24日 開発教育ファシリテータースキルアップ研修 相談員として (井上)
- 26日 明石城西高等学校 (今里・石川・本田・研修生3名)
- 27日 龍谷大学スタディツアー報告会 (坂西)
- 兵庫県立国際高等学校 (今里・本田・研修生3名)
- 大阪経済大学インターン2名受け入れ③
- 29日 神戸NGO協議会 例会 (坂西)
- 30日 ポストMDGSの開発におけるNGOの役割 (坂西)

12月

- 1日 国際ソロプチミスト神戸 クリスマス会 (芳田・モーママ)
- 2日 神戸女子大学学生来訪 (坂西)
- 5-6日 NGO相談員連絡会議 (坂西)
- 7日 タイ・スタディツアー説明会 (芳田・今里)
- 9日 ユニセフ協会 評議員会 (坂西)
- 10日 JICA・NGO協議会 (坂西)
- 13日 大阪ガールスカウト (坂西・モーママ)
- 16日 大阪YMCA 相談員として (坂西・モーママ)
- 18日 高砂市立阿弥陀小学校 (今里・本田・研修生3名)
- 22日 ミャンマー農業の再生 農村に水力発電を考える集い (坂西・モーママ)
- 23日 タイ・スタディツアー ～1月2日 (今里)
- 26日 東神吉町自治会 もちつき大会 (坂西・石川・本田・研修生3名)
- 28日 中野宗嗣さん宅 もちつき大会 (坂西・石川・本田・研修生3名)

1月

- 7日 神戸市シルバーカレッジ国際友の会懇親会 (今里・石川・本田・研修生3名)
- 9日 親和女子大学 相談員として (坂西・研修生3名)
- 10日 かめのり賞授賞式 (坂西)
- 11日 ソディ例会・布のタグ付け (芳田)
- 17日 大阪経済大学インターン報告会 (井上)
- 18日 「天に栄える村」上映会 (芳田)
- 22日 アジア・生協協力基金 (坂西)
- 28日 神戸女子大学 講義 (坂西・石川・研修生3名)
- 30日 北淡中学校 交流会 (今里・井上・石川・本田・研修生3名)
- 31日 灘小学校 交流会 (今里・井上・石川・本田・研修生3名)

2月

- 1日 三木市ユネスコ協会 10周年 (坂西)
- 1-2日 ワンワールドフェスティバル ブース出展 (芳田・本田・石川) NGO相談員として (坂西・井上)
- 4日 コープともしび 訪問 (坂西・今里・石川・本田・研修生3名)
- 5日 須磨ロータリークラブ 卓話 (坂西・モーママ・ダリスマン)
- 8日 アーユス関西・自敬寺 報告会 (坂西・石川・本田・研修生3名)
- 9日 加東市連合婦人会 報告会 (今里・芳田・石川・本田・研修生3名) 篠山ナマステ会 報告会 (同上)
- 14日 高砂ロータリークラブ 卓話 (坂西・石川・本田・研修生3名)
- 15日 国際協力入門セミナー (井上)
- 16日 加古川老人クラブ 相談員として (坂西・プレム)
- 17日 姫路東ロータリークラブ 卓話 (坂西・研修生3名)
- 18日 運営協力委員会、理事会
- 20日 国際ソロプチミスト姫路西 チャリティーバザー (芳田・本田) 支援金授与式 (坂西・モーママ)
- 21日 但馬農業高等学校 相談員として (今里・石川・本田・研修生3名)
- 22-23日 関西 NGO 大学 相談員として (坂西)
- 23日 コープ活動サポートセンター西宮 ファミリーフェスタ バザー (芳田)
- 24日 神戸NGO協議会 例会 (坂西)
- 25日 岩村史子さん宅訪問 (坂西・今里・石川・本田・研修生3名)
- 25-26日 外務省 NGO職員受入れ研修プログラム (井上)

研修旅行報告

東 日本研修旅行(11月11日～19日)

愛知県

トヨタ自動車労働組合
アークス東海・想念寺
星城中学校
小牧幼稚園

長野県

松本教会
塩尻めぐみ幼稚園

山梨県

山梨英和中学校
山梨YMCA

東京都

ロータリー米山記念奨学会
全日本自動車産業労働組合総連合会
アークス仏教国際ネットワーク・勝楽寺
日本労働組合総連合会
外務省 民間援助支援室
共同保育所にんじん

神奈川県

地球の木
山崎・谷戸の会
こどもの広場 もみの木クラブ

岐阜県

中濃教会
ソロプチミストかかみ野

西 日本研修旅行(1月11日～24日)

鹿児島県

かごしま有機生産組合
だるま保育園、蕨島小学校
出水スローカルチャースクール

熊本県

水俣病センター相思社
エコネットみなまた、ほっとはうす
熊本YMCA、菊池恵楓園

福岡県

祝町小学校
旭ヶ丘会館交流会、藤松市民センター
到津の森公園

山口県

梅光学院大学・梅光学院高等学校
あい・ネパールの会
岩国みなみワイズメンズクラブ

広島県

平和学習
共生庵
仁賀小学校、三良坂小学校、灰塚小学校
灰塚コミュニティセンター交流会

岡山県

YMCA せとうち、岡山教会コスベルグループ
御津キリスト教会



塩尻めぐみ幼稚園

廃油を使った石けん作りを体験
(エコネットみなまた)

第17期国内研修生 様々な気づきと、これからの展望



石川裕美さん

この一年を振り返って

国内研修生として過ごしたこの一年は、海外の研修生をはじめ、たくさんの人との出会いに恵まれた一年でした。

研修生たちの目を通して日本の社会を見つめる中で、便利さの裏側にある問題に気



美しい水俣湾



本田愛さん

日本の中にある人のつながり

研修生は自分たちの村と比べて「日本には助け合いがない」と言い、私自身もこれまでの経験の中で、人と人のつながりの希薄さを感じていました。しかし、西日本研修旅行の交流会で「ここには助け合い、あ



地域のお餅つきに参加

ついたり、各地で指導者・支援者の方々の様々な生き方に会い、自分の生き方や国際協力との関わりについて考え直すきっかけになりました。

「あるもの探し」

水俣で出会った「あるもの探し」もそのひとつです。村や地域をよくしようと思うと、まずそこにあるものや課題に目が行きがちですが、ないものはない。だからそこにあるものを探して、それで地域をよくしていこうという考え方です。研修生たちの村には日本と比べてないものがたくさんあります。でも同時に、人とのつながりや助けあいといったいいところもたくさんあるということも、研修生たちから教えてもらいました。そこに私たちが外から何かを持ち込むのではなく、地域の人たちがあるものを使って地域を変えていくこと

が、本当に地域をよくしていくことなのかなと思いました。

これから

この後私は青年海外協力隊員として、アフリカのセネガルという国に行くことになりました。その前にPHD協会で研修生として学ぶ機会を持ったことは、とても貴重な経験になりました。ここで学んだことを忘れず、現地でも村の人たちと一緒にあるもの探しで村づくりに取り組んでいきたいです。



一年間ありがとうございました！

村で活動する目的

早いもので、2013年4月に来日した31期研修生たちの研修期間が終わろうとしています。PHD協会は近年、帰国直前の2月に入ると、村に戻ってから活動計画を作成するための研修を行っています。今年度は3泊4日の合宿で、PCM (Project Cycle Management) という手法を応用した課題分析や活動目的を導く方法を学んでもらいました。もちろん村で実際に実行する活動計画は研修生一人ではなく、村人や村の仲間たちと一緒に作成することが大切となります。しかし合宿では練習を兼ねて、研修生それぞれがPCMを用いて課題とその根本原因に即した活動計画を作成しました。この場を借りてその一部となる、活動目的を紹介させていただきます。

ダリスマンさんとプレムさんの活動目的

プレムさんとダリスマンさんが選んだ村の課題は「村の農業は化学肥料をたくさん使用すること」でした。まず



研修担当 今里拓哉

この課題が発する問題を整理します。例えば、「化学肥料は高価」→「出費がかさむ」→「生活が厳しくなる」や「土中の微生物が減る」→「土が固くなる」→「収穫が減る」→「生活が厳しくなる」など。課題の問題を整理した後、今度は課題の原因を掘り下げます。村の人が化学肥料を大量に使用する原因として、「土着菌の大切さを知らない」など多くの考えがあがる中、ダリスマンさんは「鶏糞を有効利用しない」、プレムさんは「ボカシ肥料の有効性を知らない」という点に着目しました。活動目的はこの原因を解決することです。ダリスマンさんの場合は「有効な鶏糞を確保するための養鶏の実現」、プレムさんは「有効なボカシ肥料の普及」が目的となります。

モーママさんの活動目的

村のクリニックでボランティアとし

て医者のお手伝いをしていたモーママさんにとっての村の課題は、来日当初からあげていた「高血圧」でした。モーママさんがあげる高血圧になることによって生じる問題は、「薬を飲む必要がある」→「出費がかさむ」→「生活が厳しくなる」や「畑仕事が困難になる」→「収入が減る」→「生活が厳しくなる」など。そして課題である高血圧の原因として行き着いたのが、「幼い頃から塩分の多い食事に慣れ親しんでいる」こと。よってモーママさんの活動目的は「親を対象とした減塩啓発」をすることにより、村人が子どもの頃から減塩に慣れ、長期的には村に減塩が浸透することとなりました。

このように課題に対してその原因を一つ一つ掘り下げていくことによって、起因と活動目的を導くことができるのがこの手法の特徴です。目的が決まれば、あとはその実現に向けた活動計画作りに進みます。計画作りに関しては、またの機会にご紹介させていただけたらと思います。



ムシキイ
チャユーさん (07年度)

アサスマ(住民保健ボランティア)とベッ
ブラジャン(民生委員のような仕事)の活動
を続けている。15世帯を週1回訪問し、健
康についてのアドバイスや啓発活動を行っ
ている。村では母乳を切り上げる時期が早
いので、離乳食をいつからあげるかなどを
話している。飲料水は川の水を利用し、病
気になる人もいようなので、チャユーさ
んは煮沸を勧めている。



プラチャウンさん (98年度)

店ではガソリン、日用雑貨、魚、アイスク
リームなどを売り、月に3回チェンマイに
仕入れに行く。また自給用の米と葉物野菜、
唐辛子、バナナ、さとうきび、梅、パパイヤ、梨、
柿などを作っている。家畜は豚に、鶏の雛
が約200羽。雛はメーホンソンで12B/
羽(1B=約3円)で買い、3ヵ月育てて
1キロ100Bで売る。1羽=約1.5kg。



ポディーヤさん (06年度)

洋裁だけではなく農業も研修したポー
ディーヤさん。「今年は農業頑張りました」
と。12月末の訪問時には農薬を使わずに
キャベツをつくっていた。「ものすごく甘く、
おいしかった」とはツアー参加者の感想。



ヨマさん (87年度)

子どもはサクラ(27歳、チェンマイで仕
事)、サムライ(22歳、大学生)、スワイ
(12歳)。孫も一人。コマさんは50歳に。
村での活動は、アメリカに本部をおく
プロテスタント系団体を通じて行っている。
この団体はタイ国内に24の教会を持ち、
幼稚園も経営。ポケオでは400人の子ども
たちが通っている。農薬を使わない農業を、
コマさんが団体のスタッフに2ヵ月に1回
教え、そのスタッフたちは親たちに広めて
いる。主にニンニク、米、豆、牛、豚、魚
の養殖など。土地を持たない人には無償で
貸し、無農薬野菜を作ってもらっている。



ナーンテツさん (01年度)

引き続き、ウルー村(ミャンマーとの国
境に近いカレンの村)にある分校で教えて
いる。現在子どもは幼稚園から小学3年生
までの約40人。学校までは細い山道が続
き、雨期は子どもたちの登下校が大変。また、
マラリヤも多い。月に1回村の人が集まり
学校のことや仕事のことなどを話している。
ゴミのリサイクルも継続中。ビール瓶12
本とダンボールで8B(約24円)。政府は
無料でゴミを回収するが、自分のところに
持ってくるとお金を払うので喜ばれている。
村はきれいになるが、自分の家は汚くなる
の。それが悩みの種。



ヨンシキさん (00年度)

毎日5時半、次男とともに起床。朝食を食
べさせ、長男を学校へ送り、掃除、洗濯。そ
して1日中畑仕事をしている両親に昼食を届
け、買い物、長男の迎え、水浴びなどなど。時々
布グループのミーティングにも参加。2児の
母は、相変わらず家事・育児に大忙しの日々。



スラチさん (02年度)

妻のスミナさんの体調はまだ優れない。チェンマイの政
府系病院に時々行くが、なかなか良くならない。私立の病
院が良いが、高く行くことができない。スラチさんは引
き続き精米の仕事をし、車で1時間の山の村と、自分の
村の行き来をしている。スミナさんの体調が回復したら、
また農業をしたい。



サワンさん (99年度)

有機農業に専念し、米、にんにく、たま
ねぎ、パパイヤ、タマリンドー、とうもろ
こし(豚の餌)、白菜、空心菜などを作っ
ている。田植え、収穫は手作業だが、友人の
耕運機を借りて耕耘している。とうもろこ
しはアンボンさん(97年度)に売っている。
長男は26才で看護師、長女はチェンマ
イで大学生。家賃や学費などお金がかっ
て大変。

■□ 布の買いつけが子守に □■

■ 敷田雄さん(東大阪市・高校生)

タイ・カレン・バプティスト会議(TKBC)
に行きましたが、自分は家が仏教なので、
はじめはキリスト教などの宗教に興味があ
りませんでした。でもTKBCでの話を聞くと、
カレンの人々のキリスト教組織で、布活動
以外にリーダートレーニングもしていることが
わかりました。

マクケーン・リハビリテーションセンターで
は、マクケーン博士がハンセン病の病院を
作るために、当時暴れ象の放し飼いをし
ていた土地をもらい、1908年に設立したと聞
きました。また土地の広さは60ヘクタール
あるとても広い場所でした。ハンセン病は皮
膚病の一種で、今では治る病気となったそ
うです。そして、今も働いている浅井さんは
敷地内にある畑で有機農業をしており、帰り
にパパイヤなどの果物をもたらしました。

タイ・スタディツアー報告

毎年恒例の年末年始タイスタディツアー。参加
者レポートの一部をご紹介します。

メーサリアンで印象に残っているのは、運
転をくださったトウトウンさん(*布グル
ープのメンバーの夫)。僕を田んぼに連れて行っ
てくれたり、言葉は通じないけど身振り手振
りで「一緒に出かけよう」など、とてもかま
ってくれたからです。

もう一人はブンシーさん(00年度)の息
子のタナコー。会った夜に遊びました。次
の日トウトウンさんに採っていただいたココ
ナッツを食べていると、僕の膝の上に座り
来て、黙々とココナッツを食べていました。
布の買いつけをするはずが子守の勉強にな
りました。

ムシキイで印象に残っているのはチャユ

さん(07年度)一家です。チャユーさん
が研修生として日本に来た時に相手をして
いただき、とても会いたかったのがうれしか
ったです。息子のチョムは僕と同じ年だった
のでとても馴染みやすく、一緒に散歩をしたり
村の人たちがしているバレーボールを見に
行ったり、3日間ほとんど一緒にいました。

タイの村は空気が澄んでいて、都会だと
空気が汚れていた事に驚きました。しかし、
タイはゆったりとしていて、時間を気にしなく
ても良かったので、何回でも行きたいと思
いました。



布を楽しみ、アジアに親しむ

「チョディ」と「ルチョコ」の2つの布のグループから、手織り布製品が届きました!

▼新商品づくり▼

チョディとルチョコの2つのグループ
から手織り布製品が届きました。中
には新しい製品も含まれています。

ブンシーさん(00年度)がいるルチョコ
は、お願いしていた丸みのあるカバ
ンを作ってくれていました。前回の訪
問時に「カバンにファスナーや、内
ポケットをつけてみてはどうか」と提
案をしたところ、今年の製品につけて
くれていました。使い勝手が良くなりました!

お母さんたちとのミーティングでは、「新し
いカバンは作るのが楽しかった。皆で分担
して作った。新商品研究の参考に新しい形や
製品、日本で売れるものを教えてくれたら
嬉しい」と、こちらも嬉しくなりました。

▼お母さんたちは今年も積極的▼

ポディーヤさん(06年度)がいるチョディ
にお願いしていた新商品は、ポンチョとエ
プロン。エプロンは、布使いを工夫したりポケ
ットに刺繍をほどこすなど、お母さんたちの積
極的に、かつ楽しみながら取り組んでいる



新作のポチン



その場でエプロンを微調整

「スマートフォンケース」があがりました。
持っていたものをその場で見せ
ると、早速型をとり始めたとのこと。
次回の訪問時にはスマホケースが
新商品となっていることと思います。
皆さん、ご期待下さい!

▼3つの石▼

布のグループを訪問するのは年に
1回。しかし、お互いのグループの
近況報告をしたり、日本で販売する際に
いただいたアドバイスをもとに工夫や新しい製
品作りを一緒に考えたりと、海を越えた細
長い交流が続いています。

ルチョコとは、「3つの石でできたカマド」
のこと。3つの石を「布グループ」「PHD協会」
「布を買ってくれる人」に例え、「どれが欠
けても私たちの関係は成り立たない、仲良く
やっつけよう」という願いがこもっています。

神戸の近くにお越しの際は、是非布に会
いに事務所にお立ち寄りください。お待ち
しています。

▼次はスマホケース▼

新しい商品の提案としてツアー参加者から

(芳田弓生希)

PHD NEWS

◆会費・ご寄附託状況

2013年 10月	44件	¥4,453,641
11月	68件	¥968,400
12月	372件	¥3,690,917
2014年 1月	119件	¥1,740,312
603件		¥10,853,270

上記の通り多くの皆様より貴重なご浄財を賜りました。全日本自動車産業労働組合総連合会様、日本労働組合総連合会様をはじめ、皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。

◆来日報告会のお知らせ

第32期研修生の来日報告会を開催します。研修生の村の紹介、日本で何を学びたいかなどを報告します。ぜひ、ご参加ください。

日時：5月31日（土）14時～16時

場所：こうべまちづくり会館 3階多目的室

◆日本語復習ボランティア募集します

第32期研修生の日本語復習ボランティアを募集します。

時間：月～金曜は16時～18時、土曜は午前中

場所：PHD協会事務所

◆会員意見交換会のお知らせ

昨年引き続き、2013年度報告及び2014年度計画を報告させていただき、会員の皆様からのご意見をお伺いする場を持ちたいと思います。

日時：5月31日（土）10時～11時半（予定）

場所：PHD協会事務所

対象者：会員の方

申込締切：5月17日（土）

※会場に限りがありますので、事前申し込みをお願いします。

◆デジタルカメラが不足しています！

研修内容を記録するためのデジタルカメラが不足しております。また事務所の掃除機も故障しました。ご不用の物をお持ちの方、お譲りいただけませんか？

〇月×日のPHD協会

「西日本研修旅行中のこと」

国内研修生 石川 皆で登山中に携帯を紛失。が、後日警察に届けられる。プレムさん「私の村、無理です」と驚愕。日本の良いところも発見の研修旅行。

国内研修生 本田 あるお風呂で。なぜかお湯がだんだん水に。1月の九州、寒い、修行のよう。でも、3人一緒に、そんな状況さえも楽しめる研修旅行。

職員 坂西 仲良しプレムさんとダリスマンさん。旅行中、一緒にお風呂、一つの布団で就寝は当たり前。ある日は一緒にトイレまで。どうやってるの？

職員 芳田 研修生の居ない事務所は静かで寂しい。そんな時にかつての相方古本さん、20周年で助けてくれた奥西さん登場。元気の素をいただき感謝。

職員 井上 事務所で留守番中、助成金事業の最終選考に参加。初のプレゼンは7分間。冷や汗、いい汗、いい経験。結果は残念ながら落選も、収穫は上々。

職員 今里 北九州で女性陣は岩盤浴、男性陣は長湯しないという理由で銭湯。でも、結局チベット仏教の話に花が咲き、1時間。濃い内容に横の人も聞き耳を。

以上、通勤距離が長い順

第32期研修生は、4月5日来日予定です



メルティ・アフリダさん
(インドネシア・35歳・女性)

<研修予定>

保健衛生、協同組合
住民組織化



サントウンウーさん
(ミャンマー・22歳・男性)

<研修予定>

有機農業、協同組合
住民組織化



ムク・マヤ・タマンさん
(ネパール・28歳・女性)

<研修予定>

保健衛生、協同組合
住民組織化



PHD協会の事務所にある岩村夫妻の著作を読み返していて、次の言葉を見つけた。「われわれは今から、取り残されたところへ行って、取り残された人たちと共に、取り残された問題と取り組みます」というお二人の誓いだ。ここにPHD運動を生み出す原点があると思う。さらにネパール青年の「サンガイ・ジウナコ・ラギ」という言葉と行動に、深い愛を感じさせられた。先生との出会いは中学三年時、講演を聞いたことに始

まる。いつかネパールへ行きたいという夢を持ち、37年後のPHD協会のスタディツアーで、帰国研修生たちの活躍とネパールの人たちの温かさ、そして天空にそびえる山々に神々しさに触れることができた。

昨年四月以降、研修生モーママさんを我が家に受け入れた。より近い所からPHD協会の活動を見ていて、多くの草の根の方々の善意と献身的なスタッフの活動を知った。「継続は力なり」、今のPHD協会を荷う一人として、活動の火がさらに広がることを願っている。 (桃骨)

スタディツアーのご案内

帰った研修生に出会う旅。

一緒に出かけませんか？

お問い合わせお待ちしております。

ネパール：7月末～8月初旬

ミャンマー：8月下旬



編集協力：桃骨